

---

# ご挨拶

## シンポジウムの開催にあたって

21世紀の科学技術のなかで、重視されている情報科学技術は、経済社会の側面から見ると既存の産業の生産性を大きく向上させるとともに、新しい技術の開発や新産業の創出に貢献することが期待されます。

なかでも、コンピュータシミュレーションに代表される計算科学技術は、「実験」、「理論」に次ぐ第三の科学技術手法として資源を大量に消費せず、比較的短期間で様々な分野の問題を解決するための有力な方法として注目されております。

一方、これまで以上に生産的な研究環境を実現するための情報基盤として、各地に分散している研究者、研究機関がネットワークを介して共同して研究開発を行える環境、ネットワーク上に分散した情報資源を系統的に統合し、新しい生産システムの創出が望まれております。

このような状況を踏まえ、当機構では、計算科学技術の手法を用い、高速ネットワークを活用した特定分野の研究開発を促進することにより、計算科学技術の進展とネットワークの高度活用を図ることを主な目的として、平成10年度から「計算科学技術活用型特定研究開発推進事業」の推進に着手致しました。

本事業では、大学、民間企業、独立行政法人等の研究機関に所属する研究者から研究開発提案を募集し、計算科学技術委員会の選考を踏まえて研究開発課題を選定し、共同研究あるいは委託研究により研究開発を推進しています。また、得られた研究成果（プログラムなど）については、広範囲な分野で利用させることを目的として、ACT-JSTソフトウェアライブラリ（<http://act.jst.go.jp>）を通じて公開を行っています。なお、本事業の新規募集は平成13年度で終了し、平成14年度より戦略的創造研究推進事業「シミュレーション技術の革新と実用化基盤の構築」領域において研究開発の推進を行っています。

この度、平成13年度に採択された21課題が、本年11月末をもって3年間の研究開発期間を終了します。各課題の内容並びにこの間に得られた研究成果について発表し、内容の公知と活発なディスカッションを行うことにより、参加者のご理解を得るとともに広く普及する機会とするため本シンポジウムを開催いたします。

本シンポジウムでは、物質・材料、生命・生体、地球・環境、情報・通信及びスパコンネットワーク分野の5分野において、計算科学技術を駆使した研究成果について報告致しますので活発なご討議をお願いする次第です。

平成16年10月6日

独立行政法人科学技術振興機構

---